

“V到”表現をめぐる日中対照研究(2)

A Contrastive Study of “V到” Forms in Chinese and Their Corresponding Expressions in Japanese(2)

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

概要 「“V到”表現をめぐる日中対照研究(1)」を参照

キーワード

1. 主要部 head
2. 完結 completion
3. 意味構造 semantic structure
4. 動作/状況 action/situation
5. 可能表現 expression of possibility

目次

- 1 “V到”表現について
 - 1.1 主要部前項型の“V到”
 - 1.2 “V到”における“-到”の働き
- 2 “V到”、日本語他動詞・複合動詞の意味構造
 - 2.1 “V到”と日本語他動詞
 - 2.2 “V到”と日本語複合動詞
- 3 動作と状況
 - 3.1 “V到”と日本語自動詞
 - 3.2 “V到”と日本語可能表現
- 4 まとめ

2.2 “V到”と日本語複合動詞

“V到”に対して日本語複合動詞が対応する例としては、

- (1) 我好不容易才找到了朋友的家。
- (1)’ 私はやっと友人の家をさがしあてた。

のほか、さらに以下のようなものが挙げられる。

- (30) 我一定要做到。
(『岩波 中国語辞典』“-到”の項)

(30)’ ぼくはきっとやりとげてみせる。(同上)

(31) 这个人好像在哪儿看到过。
(《现代汉语八百词》“-到”の項)

(31)’ この人はどこかで見かけたことがあるようだ。
(『中国語文法用例辞典』“-到”の項)

(32) 孩子在柜橱上看到了点心。
(《日语动词用法词典》「みつける」の項)

(32)’ 子供が戸棚にお菓子を見付けた。(同上)

(33) 或许您已经听**到**了那件事。
 (『岩波 日中辞典』「ききおよぶ」の項を一部修正)

(33)' そのことについてはすで**にお聞きおよび**のことかと存じますが。(同上)

(34) 我把几件临时想**到**的事说一说。
 (『岩波 日中辞典』「おもいつく」の項)

(34)' **思いついた**ことを2、3申し上げます。
 (同上)

これらの表現例においては、一見したところ、“V**到**”の前項Vに対して日本語複合動詞の前項が、“-**到**”に対して後項がそれぞれ対応しているかのようである。

しかし、(30)～(34)に対しては、

- (30)" ぼくはきつと**や**ってみせる。
- (31)" この人はどこかで**見**たことがあるようだ。
- (32)" 子供が戸棚にお菓子**を**見た。
- (33)" そのことについてはすで**にお聞き**かと存じますが。
- (34)" **思**ったことを2、3申し上げます。

のような単独の他動詞を用いた表現を対応させることも可能であり、これらの表現例における“V**到**”と日本語複合動詞の意味構造が異なることがみとれる²⁸⁾。日本語複合動詞が中国語の「動詞+結果補語」とは異なり、文字通りの意味以外にしばしば一種の付加的な意味を帯びるという点については前述した通りである。(30)～(34)に対して(30)'～(34)'が成立することからは、このような意味構造の相違が“V**到**”と日本語複合動詞の間における対応関係の成立を必ずしも妨げるものではないことが、複合動詞を用いた(30)'～(34)'、他動詞を用いた(30)"～(34)"がともに成立することからは、前者に用いられている複合動詞の主要部が前項であることがそれぞれみとれる²⁹⁾。

2.1で述べたように、“V**到**”表現における“-**到**”に相当する働きは、“V**到**”に対応する日本語他動詞に内包されている。とすれば、日本語複合動詞の表わす意味は、中国語“V**到**”が表わす意味に加えて、さらに何らかの付加的意味が加わったものであるということとなる。にもかかわらず、“V**到**”に対して日本語他動詞が単独で対応するケース、複合

動詞が対応するケースのいずれもが存在するという現象は、どのように理解すればよいのであろうか。この点についてのヒントとなる記述が、荒川 1989にみられる。同：15-16は、“记住”の“-住”を「しっかり」とまで訳す必要はないが、“-住”を単に結果とだけいうのも不十分であるとした上で、例えば

- イ) “记住(おぼえる)”、“抓住(つかまえる)”、“拦住(さえぎとめる)”、“堵住(ふさぐ)”、“塞住(うめる)”、“接住(うけとめる)”、“停住(とまる)”、“留住(ひきとめる)”

においては、動詞の語彙的意味と“-住”とに共通のものがあるから、“-住”は単に結果を表わすだけと考えたくなるが、

- ロ) “拿住(しっかりもつ)”、“拉住(ひきとめる)”、“叫住(よびとめる)”、“劝住(説得してとめる)”、“问住(といつめる)”

においては、動詞の語彙的意味に対し補語の意味が分離できるとしている。イ)、ロ)を比較すると、後者における方が“-住”から読みとられた情報がより明確な形で日本語に反映されている。すなわち、イ)は前項動詞が単独で用いられる場合にも同一の日本語成分が対応するのに対し、ロ)は前項動詞の意味に付加的意味が加わっており、それが日本語の「連用修飾成分+動詞」あるいは複合動詞に置き換えられている³⁰⁾。このことから、「動詞+結果補語」を日本語に置き換えた表現の中には、結果補語の語彙的意味を反映する形で連用修飾成分あるいは複合動詞の後項が対応するケースの存在することがみとれる。これらのことを参考にして“V**到**”表現とそれに対応する日本語表現をみていくと、以下のようになる。つまりは、“V**到**”に対して日本語他動詞が単独で対応するケースにおいては、Vの語彙的意味を中心とした表現、すなわち動作中心の表現に置き換えられているのに対し、複合動詞が対応するケースにおいては、“-**到**”の「到達する」という語彙的意味を後項に反映した表現、すなわち結果を明確に表わす表現に置き換えられている。前掲の表現例のうち、“-**到**”の語彙的意味が最も明確に反映されているのは、(30)、(30)'の“**做到**—やりとげる”である。「やりとげる」は「終わりまでする/完全にやる(『広辞苑』「やりとげる」の項)」を表わし、動

作が最終的な到達点に達したことが明白である³¹⁾。同様の例としては、《漢日辞典(“-到”の項)》に収録されている“看到—見とどける”の対応が挙げられる。「見とどける」も、「終りまで見きわめる(『広辞苑』「みとどける」の項)」のように動作が最終的な到達点に達したことを表わすため、“-到”の語彙的意味を反映した日本語表現として“看到”に対応させることが可能である。また、(33)、(33)’の“听到—聞きおよぶ”、(34)、(34)’の“想到—思いつく”の場合には、日本語複合動詞の後項である「およぶ」、「つく」が、いずれも本来は「ニ」によってトコロ(到達点)と組み合わせられることの可能な動詞である。さらに、(32)、(32)’の“看到—見付ける”の場合には、「見つける」が「探していた物を発見する/何かを偶然見て知ってしまう(『日本語 基本動詞用法辞典』「みつける」の項)」を表わし、佐治 1992: 213 の記述にみられるように「視線を接着させる」ことを意味するため、到達と深く関わっているということができよう。一方、(31)’の「見かける」は、「偶然に目にする/ちょっと見る(国立国語研究所 1972: 439、姫野 1999: 134、『外国人のための 基本語用例辞典』「みかける」の項)」を表わし、偶然の結果として実現する出来事を表わすことが可能な“V到”との間に用法上の相似点を有する一方、客体映像を短時間あるいは瞬間的に視覚でとらえることを表わす点において、「到達」という瞬間的な動作の概念を表わす“-到”との間に接点を有する。

このように、“V到”に対して日本語複合動詞が対応する例の中には、「到達する」という“-到”の語彙的意味を反映させることの可能な動詞、換言すれば“-到”との間に意味上の共通点・相似点あるいは接点を有する動詞を後項とする日本語複合動詞が用いられるケースが存在するのである。

ところで、

- (1) 我好不容易才找到了朋友的家。
 (1)’ 私はやっと友人の家をさがしあてた。
- (35) 我说, 玛丽, 把产生放射线的性质称为放射能, 这真是找到了一个非常恰当的词啦!
 (《学友现代日语IV》: 259)
- (35)’ だがマリー、放射線を出す性質を、放射能とは、全くよく言葉をさがし出したものだよ。(同上: 239)

の場合には、“找到”における“找”、“-到”が、それぞれ日本語複合動詞の前項「さがす」、後項「-あてる/-出す」に対応し、働きかけ、結果がそれぞれ前項、後項によって表わされている一方、「さがす」は客体への到達をとまなわない動作を表わすため、“找到”に対して「さがす」を対応させることはできない³²⁾。また、“-到”は 1.1 で述べたように抽象的な概念を表わす成分としての性格を有し、かつ広範な動詞と組み合わせられる³³⁾のに比べ、日本語複合動詞の後項となりえる「-あてる」、「-出す」のような成分は具体的な概念を表わす働きがより強く、組み合わせ可能な動詞が限定されている。このため、複合動詞を形成するための組み合わせ可能な後項動詞をもたない日本語他動詞の場合には、単独で“V到”に対応することとなると考えられる³⁴⁾。

一方、

- (36) 你要的那本书我已经找到了。
 (《现代汉语八百词》“-到”の項)
- (36)’ あなたが欲しがっていたあの本はもう見つけましたよ。
 (『中国語文法用例辞典』“-到”の項)

の場合には、(1)、(1)’ および(35)、(35)’ のケースに比べると、“-到”から読みとった付加的意味の方により一層比重を置いて日本語に置き換えた形となっている。(36)’ の「見つける」は結果を中心として日本語に置き換えるために選択された動詞であり³⁵⁾、(36)の“找(さがす)”との間には直接的な対応関係が存在しない。「見つける」は、これ自身が複合動詞であり結果の段階を表わしている³⁶⁾が、これに対してはさらに「-出す」をとまなつた「見つけ出す」も存在し、例えば

- (36) ……玛丽, 你终于找到了世界上头一份纯粹的镭!(《学友现代日语IV》: 264)
- (37)’ ……マリー、とうとうおまえは、世界で最初の純粹ラジウムを見つけたぞ!
 (同上: 248)

のように“找到”に対して「見つけ出す」を対応させたケースがみられる。(36)、(36)’ のような対応関係が成立することからも明白なように、(37)、(37)’ の対応関係においては、“找到”が「動作の過程(働きかけ) — 結果」の関係を表わすため、“找”

に対して「見つける」が、“-到”に対して「-出す」がそれぞれ対応していると解することは妥当ではない。「見つけ出す」が表わす内容は、「さがし出す／見つける」の場合とは異なり、“找到”が表わす内容にさらに付加的意味が加わったものである。このことは(37)’について言えば、「純粋なラジウムを(多くの物質の中から)さがし出して取り出す」というニュアンスが明確に表わされているということであり、「-出す」は「見つける」がもともと含意している結果をさらにとりたてる働きをしている点において、“找到”における“-到”の働きとは異なる。

“V到”に対して日本語複合動詞が対応する例としてはさらに、

- (38) 一个月以后, 我终于收到了他的回信。
(《汉语动词——结果补语搭配词典》)
- (38)’ 1ヶ月後に、私はついに彼の返事を**受け取った**。(丸尾 1997: 114)
- (39) 在会上, 老赵**提到**了这件事。
- (39)’ 会議の席で、趙さんはこの件を**持ち出した**。

が挙げられる。但し一方では、(38)’、(39)’に対する

- (38)’ 一个月以后, 我终于收了他的回信。
(丸尾 1997: 114)
- (39)’ 在会上, 老赵提了这件事。

のように、中国語のVに対して日本語複合動詞が対応する例も存在する。このようなケースについて、待場 1990: 52 は

- (40) 但是, 接**到**发票, 低头一看, 陈奂生便象给火钳烫着了手。(高晓声<陈奂生上城>)

における“接(受け取る)”に対する結果補語“-到”は「確かにその動作が行なわれた、目的に達した」という意味しかもたないため、“接到”は「受け取った」としか訳しようがないとしている³⁷⁾。このように、“V到”と日本語複合動詞との間に対応関係が存在するといっても、V、“V到”のいずれであるかによって相違がみられないケースも存在する。このようなケースにおける日本語複合動詞は前項、後項の一体性が極めて強く、単独の日本語他動詞に

極めて近い性格を有するということができよう。すなわち、「受け取る」、「持ち出す」に対して中国語のVが単独で対応する、(38)’と(38)”、(39)’と(39)”のような表現例の存在によっても明白なように、「受け取る」は

- (41) 我从姐姐那儿得**到**了一个本子。
(『岩波 日中辞典』「もらう」の項を一部修正)
- (41)’ 私は姉からノートを1冊**もらった**。(同上)

における「もらう」と同様に一つの動詞相当の働きをしており、「持ち出す」は本来の具体的な動作を表わす用法ではなく「話題にする、言及する」のような一つの動詞相当の成分として比喩的に用いられている。このため「受け取る」、「持ち出す」は、前項が表わす動作の意味に対して後項が付加的意味を加えているケースとは性格が異なり、前項、後項の意味上の一体性が極めて強く、いずれが主要部であるかの判別が困難である³⁸⁾。

ところで、“V到”に対しては主要部前項型複合動詞だけでなく、例えば

- (42) 我在路上碰**到**了一位熟人。
(《漢日辞典》“碰”の項を一部修正)
- (42)’ 私は道で知人に**出会った**。
- (43) 他一生遇**到**了很多好机会。
- (43)’ 彼は生涯の中ですばらしい機会に多く**めぐり会った**。

のように主要部後項型複合動詞が対応するケースも存在する³⁹⁾。このような対応関係が成立するのは、(42)’の「出会う」、(43)’の「めぐり会う」がいずれも偶然に実現する出来事を表わす成分であり、「偶然の結果」を表わす“碰到”、“遇到”との間に意味上の共通点を有することに起因すると考えられる。「出会う」、「めぐり会う」のような主要部後項型の日本語複合動詞は中国語の主要部後項型「動詞+結果補語」とは異なって、後項動詞に対して前項動詞が付加的意味を加え、全体として一つの出来事を表わしている。但し、上記のような対応関係は固定したのではなく、例えば待場 1990: 53 において“见到——であう”のような対応パターンが例示されている一方で、例えば

- (44) 昨天下午我见到了你哥哥。
 (《实用现代汉语语法》: 333)
 (44)' きのうの午後私は君のお兄さんに会った。
 (『現代中国語文法総覧(下)』: 452)

のように日本語動詞が単独で対応するケースもみられる。

3 動作と状況

3.1 “V 到” と日本語自動詞

“V 到” に対して日本語自動詞が対応する例としては、

- (3) 你找到了什么好工作了吗?
 (3)' 何かよい仕事が見つかりましたか。

のように、ペアとなる他動詞をもつ自動詞が対応するケースが存在する。辞書の記述においては、“找到” に対して「見つける」を対応させているケース(『岩波 日中辞典』、《日语动词用法词典》における「みつける」の項)、「見つかる」を対応させているケース(『岩波 日中辞典』、《日语 5000 基本词词典》における「みつかる」の項)のいずれも存在する。

「見つける」は

- (3) 君は何かよい仕事を見つけましたか。

のようにコトガラを主体の動作として表現するのに対し、「見つかる」は「～ガ 見つかる」形式により動作主体を問題とはせずコトガラを状況として表現する⁴⁰⁾ため、主体を表わす成分を含まない(3)' のような表現を構成する。(3)'、(3) の両者を比較すると、コトガラを状況中心に表現する傾向のある日本語においては、前者を用いる方がより自然であると考えられる⁴¹⁾。このように、“找到” に対しては「見つける」のみならず「見つかる」を対応させることも可能であるため、例えば

- (22) 找了, 可是没找到。

に対する

- (22)' さがしたが、見つからなかった。

のように“找”、“找到” に対してそれぞれ「さがす」、「見つかる」を対応させること、すなわち、動作の過程段階と結果まで生じた段階とを別個の出来事として表現することも可能である⁴²⁾。

“V 到” に対して日本語自動詞が対応するケースとしてはこのほか、例えば

- (45) 正好那时, 看到从后面有人出来。
 (《中文版 日语句型辞典》「みえる」の項)
 (45)' ちょうどそのとき、裏からだれかが出てくるところが見えました。(同上)
 (46) 响声很大, 很远都能听到。
 (《现代汉语八百词》“-到”の項)
 (46)' 音がとても大きかったので、遠い所でも聞こえた。
 (『中国語文法用例辞典』“-到”の項)

- (47) 一进到房间里就闻到了咖啡的香味。
 (《日语动词用法词典》「におう」の項)
 (47)' 部屋に入るとコーヒーがにおってきた／におった。(同上／同上を一部修正)

のような感覚動詞を用いた表現が挙げられる⁴³⁾。これらの表現例に用いられている「見える」、「聞こえる」、「におう」も、「見つかる」の場合と同様にそれぞれペアとなる他動詞「見る」、「聞く」、「嗅ぐ」をもち、前者が状況表現を、後者が動作表現をそれぞれ構成する。前者を用いた状況表現においては、寺村 1982: 271-272、279-280 が「見える」、「聞こえる」について述べているように主体が意識されず、コトガラは「ひとりでにそうなる」ものとして表現されることとなる。

1.2 で述べたように、“V 到” は、出来事を「意図的な動作の結果」、「偶然の結果」のいずれとして表現することも可能である。“V 到” に対して日本語自動詞が対応しえるのは、コトガラを状況中心に表現するという日本語の傾向のほか、「偶然の結果」を表わすことが可能な“V 到” が、意志性を含まない日本語自動詞との間に意味上の接点を有することとも無関係ではないと考えられる。

“V 到” に対して日本語他動詞、自動詞の双方が対応する例としてはさらに、例えば

- (48) 你买到票了吗?
 (48)' あなたは切符を手に入れましたか。
 (48)" 切符は手に入りましたか。

が挙げられる。この場合には、(48)の“买”に対応する動詞が(48)'、(48)"には用いられておらず、結果の部分を中心として日本語に置き換えられている。このような対応関係は辞書の記述にもみられ、例えば『岩波 中国語辞典(“-到”の項)』は“买到”に対して「手に入れた」を対応させている。(48)に対して「買う」を用いた日本語表現を対応させようとすると、

- (49) あなたは切符を買いましたか。

のような他動詞表現となる⁴⁴⁾一方、

- (49)' あなたは切符を買って手に入れましたか。

を対応させることも可能ではあるものの、表現の自然さの度合いは(48)'、(48)"に劣る⁴⁵⁾。これは、(49)'の「買って手に入れる」は、「～テ～スル」形式によって「買う」と「手に入れる」が別個の出来事として表現されているため⁴⁶⁾、一つの出来事を表わす“买到”との間に意味上のアンバランスが生じていることによると考えられる。“买到”における“-到”の段階は、2.1で述べたように日本語動詞「買う」に内包されているため、“买到”表現を日本語に置き換えるにあたって“买”の部分を中心とするのであれば(49)のように「買う」が用いられる。一方、「どのようにして(手に入れたか)」という働きかけのありようを問題とせず結果の部分を中心とし、かつ、動作として表現するのであれば(48)'のように「手に入れる」が、状況として表現するのであれば(48)"のように「手に入る」がそれぞれ用いられる。

3.2 “V到”と日本語可能表現

3.1で述べたように、

- (22) 找了, 可是没找到。

のような“V到”表現に対しては、

- (22)' さがしたが、見つからなかった。

のような日本語自動詞表現が対応するケースが存在する。(22)に対してはさらに、

- (22)" さがしたが、見つけれなかった/見つかることができなかった。

のような他動詞を用いた可能表現を対応させることも可能である。

周知のように、中国語にはいわゆる可能補語の形式が存在し、“V到”の場合も“V得/不到”の形で可能・不可能を表わすことが可能であるものの、上記のように“V到”に対して日本語可能表現が対応するケースが存在するのである。このような対応関係が成立する要因としては、“V到”自体が可能を表わす形式としての性格を有することが挙げられる。この点について、大河内 1980: 67, 70 は、中国語の「動詞+結果補語/方向補語」と「動詞+不+結果補語/方向補語」の間には可能・不可能の対応関係が存在し、「動詞+得+結果補語/方向補語」は強意の可能形式であるという見方を提唱した上で、否定においては結果の否定によって出た不可能の意味が、肯定では結果体の表明というだけでは可能の意味が希薄になり、語彙的に可能を意味する“得”を補ってやらねばならないとしている。また、杉村 1988: 215 は、いわゆる可能補語形式に用いられる“得”、“不”を挿入辞であるとする見方に対し、両者が意味的に肯定・否定の対をなしていないことや使用頻度における差異が大きいことなどの点から疑問を呈している。同: 218, 225-226 はさらに、「動詞+結果補語/趨向補語」を「動詞+“不”+結果補語/趨向補語」に対応する一次的な肯定形とみなし、「動詞+“得”+結果補語/趨向補語」を二次的な肯定形とみなすことが可能であるとする一方、可能補語の「可能」とは結果補語によって示される事態が実現するか否かという蓋然性や、実現しているか否かという状態をいうものであり、「動詞+結果補語/趨向補語」、「動詞+“得”+結果補語/趨向補語」という“得”の有無によってもたらされる本質的な相違は、大河内のこのような可能の意味の濃淡にあるのではなく、「変化対状態」というアスペクト的対立を形成していることであるとしている。大河内、杉村の記述は、「動詞+結果補語/方向補語(趨向補語)」、「動詞+“得”+結果補語/方向補語(趨向補語)」間の本質的相違に対する見解の相違はあるものの、前者を「動詞+“得/不”+結果補語/方向補

語(趨向補語)」とともに可能表現を構成する形式の一つとしてあつまっている点、換言すれば“得”、“不”を用いた可能補語形式とともに可能表現の系列を構成するものと位置づけている点において共通している。このように、「動詞+結果補語」は可能を表わす形式としての性格を有するため、このことが“V 到”と日本語可能表現との対応関係を成立させる一因であると考えられる。“V 到”が有するこのような可能表現としての側面は、1.1、1.2 で述べたような動作が完結したことを確定する働きとは異なり、“- 到”が存在することにより備わっているものというよりは、“V 到”が「動詞+結果補語」形式であることにより備わっているものである。このため、例えば

(50) 抓了, 可是没**抓住**。(荒川 1982 : 83)

のような“V 住”を用いた表現例の場合も同様に、

(50)' (どろぼうを)つかまえようとしたが、**つかまらなかつた**。(同上を一部修正)

のような自動詞表現のほか、

(50)" (どろぼうを)つかまえようとしたが、**つかまえられなかつた**／**つかまえることができなかつた**。(同上を一部修正)

のような可能表現を対応させることが可能である。ちなみに、(50)の“-住”を“-到”に置き換えた

(50)"' 抓了, 可是没**抓到**。(同上を一部修正)

も自然な表現として成立する。

ところで、「見つかる」が他の自動詞と同様にコトガラを状況として表わす成分である点については 3.1 で述べた通りであるが、この動詞自体にも可能の意味が含まれている。この点については、『日本語基本動詞用法辞典(「みつかる」の項)』がその用法の一つとして「探していた物を見つけることができる」を挙げていることによっても理解できよう。同様のことは、「見える」、「聞こえる」などの感覚動詞についてもあてはまり、例えば

(51) 我看了一看, 可是没**看到**。

(52) 我听了一听, 可是没**听到**。

に対応する

(51)' 見ようとしたが、**見えなかつた**。

(52)' 聞こうとしたが、**聞こえなかつた**。

は、可能表現の形式を用いた

(51)" 見ようとしたが、**見られなかつた**／**見ることができなかつた**。

(52)" 聞こうとしたが、**聞けなかつた**／**聞くことができなかつた**。

と同様の内容を表わす。このことは、寺村 1982 : 272、276-277 に、「見える」、「聞こえる」が「見られる」、「聞ける」と同様に「可能」の意味を表わす旨の記述がみられることとも符合する⁴⁷⁾。

“V 到”に対して日本語可能表現が対応する例としてはこのほか、

(4) 戏票**买到了**。

(4)' 芝居の切符が**買えました**。

(25) 买了半天, 可是没**买到**。

(石村 1999 : 147、荒川 1982 : 83)

(25)' ずいぶん買おうとしたが、**買えなかつた**。

(同上を一部修正)

や、あるいは

(24) 借了半天, 可是没**借到**。

(石村 1999 : 147、荒川 1982 : 83)

(24)' ずいぶん借りようとしたが、**借りられなかつた**。(同上を一部修正)

(27) 你要的那本书我给你借了, 可是没**借到**。

(27)' 君が欲しがっていたあの本は、借りようとしたけど、**借りられなかつた**。

(丸尾 1997 : 115-116 を一部修正)

などが挙げられる。

上記の表現例に用いられている「買う」、「借りる」は、「見つかる」、「見る」などとは異なり、ペアとなる自動詞をもたない。3.1 で述べたように、「見つか

る、「見える」のような自動詞表現はコトガラを状況として表現する場合に用いられるのに対し、「買う」、「借りる」の場合は状況表現を構成するための自動詞がそもそも存在しない。一方、可能表現の場合には、自発態と同様に「～**ガ**買える／～を買うこと**ガ**できる」、「～**ガ**借りられる／～を借りること**ガ**できる」のような、動作主体を問題としない形式をとることが可能である。また、寺村 1982:269、275、277 には、日本語の可能態が表わす中心的な意味は「何々しようと思えば、その実現についてさまたげるものはない」ということであり、自発態とは異なって状態性の表現、「可能な状態が(発話の場を離れて一般に)存在する」ことを表わす表現である⁴⁸⁾旨の記述がみられ、日本語可能表現が有する非動作表現としての性格がみてとれる。このように、日本語可能表現は状況表現としての性格を備えているため、ペアとなる自動詞をもたない他動詞を用いた場合には、可能表現によって状況を表わすこととなると考えられる。換言すれば、日本語可能表現は、可能を表わすことを中心的な役割としつつコトガラを状況中心に表わす働きをになうという側面をも有するのである⁴⁹⁾。

ところで、2.1で述べたように、“**V到**”と日本語他動詞との対応関係が成立するのは、両言語間で対応するとされる動詞の間に、動作の完結までを含意するか否かの点で相違がみられることによる。これに対し、“**V到**”と日本語可能表現が対応するケースについては、「動作の客体への到達」以外の意味を“-到”から読みとった結果であるという見方が可能である。すなわち、他動詞が対応するケースにおいては、“**V到**”が表わす内容が客観的事実として日本語表現に置き換えられているのに対し、可能表現が対応するケースにおいては話者の主観的判断が“-到”から読みとられているということである。このことは、例えば

(53) 越漢辞典我今天可**买到**了一本。

(讚井 1996:31)

のような話者の主観を表わす成分(“可”)を含んだ中国語表現に対しては、

(53)’ 越漢辞典今日やっ**と**買ったよ。(同上)

のような他動詞表現よりも

(53)” 越漢辞典今日やっ**と**買えた／買うことができたよ。

のような可能表現の方がふさわしいことによって理解されよう。(53)、(53)”のような対応関係は、日本語可能表現が、あらかじめ意図された動作の達成を表わす働きを有することもその一因となって成立すると考えられる。日本語可能表現が有するこのような特徴について、『日本語学キーワード事典』:76は、動詞の可能形のタ形はある行為の達成の意を表わすことができるとし、川村 2004:116-117は、日本語可能表現が表わす「可能」の意味の一つとして<意図成就>、すなわち「やろうとしてその行為が実現したこと=意図した行為の意図どおりの実現」を表わすことを挙げている。動作の達成は、それがあらかじめ意図されたものであるだけに、それに対して話者による肯定的な主観的判断がなされるとしても不自然ではない。このことは、井島 1991:160-161に、日本語可能表現に「やっ**と**(のことで)」のような副詞句が加わると「実現した事態」を含意する旨の記述がみられることも矛盾しない。

(53)と同様に、

(13) 这本书我到处托人买,今天可**买到**了一本。

の場合にも、話者の主観を表わす“可”が含まれている。このような“可”の用法は、『岩波 中国語辞典(“可”の項)』の「容易に実現しなかったことや久しく期待していたことが実現したときに、意外だと言いたいほどの気分を示す」にあたりと考えられる。(53)、(13)は、讚井 1996:31、丸尾 1997:115の記述にみられるように“-到”を除くと自然な表現としては成立しないことから、これらの表現における“可”と“-到”との意味的な関わりの強さがみてとれよう。ちなみに、(13)に対しても、(53)、(53)”の場合と同様に

(13)’ この本を、私は買っておいでくれるようあちこちで頼んであったが、今日やっ**と**買う**ことができた**。(丸尾 1997:115)

のような日本語可能表現が対応する。

このように“-到”は、動作の完結を確定する働きを有するとともに、動作の完結に対する話者の主観的判断を表わす成分との結びつきが強い。“**V到**”

が有するこのような特徴は、日本語可能表現が動作の達成を表わす場合にみられる前述した特徴との間に意味上の接点を有し、この点も“V 到”と日本語可能表現との対応関係を成立させる要因の一つであるということができよう。上記のような“V 到”の特徴は、この形式が「動詞+結果補語」形式であることにより可能表現としての性格を備えていることも深く関わっていると推察される。

4 まとめ

以上、中国語の“V 到”に対して日本語の他動詞、複合動詞、自動詞、可能表現が対応するケースを対象として、それらの対応関係が成立する要因についての考察を行なった。

“V 到”に対して日本語他動詞が対応するケースにおいては、日中両言語の間で相互に対応するとされる動詞の意味構造が異なり、中国語においては“-到”によって確定される客体への動作の到達段階が日本語においては動詞自身に内包されていることが要因となる。また、日本語複合動詞が対応するケースにおいては、“V 到”が表わす内容を日本語に置き換えるにあたって“-到”との間に意味上の共通点・相似点あるいは接点を有する動詞を後項とする複合動詞や、“V 到”が表わす内容を結果中心に置き換える、さらにはとりたてることの可能な複合動詞、前項と後項との意味上の一体性が強い(一つの動詞に相当する)複合動詞、動作が偶然に実現することを表わす主要部後項型の複合動詞が存在することなどが要因となる。さらに、日本語自動詞が対応するケースにおいては、コトガラを状況中心に表現する日本語の傾向や、“V 到”が「偶然の結果」を表わすことが可能な点において意志性を含まない日本語自動詞との間に意味上の接点を有することが要因となり、日本語可能表現が対応するケースにおいては、「動詞+結果補語」形式の“V 到”が可能表現としての性格を有することに加え、日本語可能表現が状況表現としての性格を備えている点において自動詞表現に近い性格を有することや、動作の達成を表わす働きを有するため話者の肯定的な主観的判断を含意しやすい点において、動作の完結に対する話者の主観的判断を表わす成分との結びつきが強い“-到”との間に意味上の接点を有することなどが要因となる。

注

- 28) (32)”の「子供が戸棚にお菓子を見た」は、コンテキストフリーでは不自然とされる可能性があるものの、“看到—見る”の対応そのものを排除するわけではない。《漢日辞典(“-到”の項)》は、“看到”、“听到”に対応する日本語成分の一つとしてそれぞれ「見た」、「聞いた」を挙げている。
- 29) 長嶋 1976 : 80、82、84-85 は、前項動詞が意味の上で中心をなす例として「捜しあてる」、「為し遂げる」、「見つける」、「聞きつける」、「知り及ぶ」、「思い至る」を挙げている。
- 30) この点についてはさらに待場 1990 : 44、50、53 を参照。
- 31) 森山 1988 : 51 には、「-遂げる」が意味的にはアスペクト的であり、統語論的であるとみられる一方、語彙的な性格をも有する旨の記述があり、この点においても“-到”との共通点が見いだされる。
- 32) この点については木村 1981 : 38 を参照。
- 33) “-到”をはじめとする結果補語が日本語複合動詞の場合に比べ広範な動詞と結びついて様々な意味構造を表わすという点については、待場 1990 : 58、望月 1990 : 22 を参照。
- 34) “V 到”と日本語複合動詞の間におけるこのような相違は、日本語話者による誤用を生む原因ともなっている。待場 1990 : 59 は、日本語話者の中国語作文にみられる傾向として、中国語では主要部前項型の「動詞+結果補語」によって表現するのが適切と考えられるケースにおいて、ほぼ 8 割が動詞のみを用いて中国語に置き換えることを挙げている。
- 35) 荒川 1985 a : 5 は、“找”、“找到”に対してそれぞれ「サガス」、「見ツケル」を対応させている。この点については成戸 2009 a : 64-68 で述べた。
- 36) 「見つける」が複合動詞である点については、長嶋 1976:84-85 を参照。国立国語研究所 1972:219-220 には、「さがす」は経過(本稿でいう「動作の過程(働きかけ)」)を、「見つける」は結果の実現をそれぞれ表わす傾向がある旨の記述がみられる。「さがす」と「見つける」との間には形態的なつながりはなく、「働きかけ—結果」の対応関係は語彙的なものである。語彙的な対応については、「する」とその可能形「できる」について述べた寺村 1982 : 256 を参照。
- 37) 荒川 1989 : 12 は、「うけると」に対応する中国語の成分として“收到”、“收下”、“收了”を挙げている。“收到、收—受け取る”の場合と同様の対応関係を有する点においては“接到、接”、“领到、领”も同様であり、“小李接到妈妈的信了。(黄华 1992 : 620) / 李さんは母親から

の手紙を**受け取った**。”、“我**领到了**这个月的工资。／私は今月分の給料を**受け取った**。”、“一手接钱 一手交货。／一方の手では金を**受け取り**、他方の手では品物を渡す。(《漢日辞典》“接”の項)”、“他领了工资就马上花了一千二净。／彼は給料を**受け取る**とすぐに使ってしまう。”などの例が挙げられる。但し、日本語との対応関係において目立った相違がみられなくとも、“-**到**”の有無によって内容やニュアンスが異なるケースがあり、たとえば(39)の“**提到**”は「言及する」、(39)の“**提**”は「話題に(ちょっと)ふれる」を表わすという相違がみられる。

- 38) これに対し長嶋 1976 : 77, 80 には、「受け取る」は「被修飾要素+修飾要素」の関係を有する複合動詞に分類され、意味の上で中心をなすのは前項動詞の方である旨の記述がみられる。
- 39) 待場 1990 : 51 には、“**碰**”は「出会う」という意味を表わすものの、このような用法の場合には単独では用いられず、“-**到**”、“-**见**”、“-**上**”と組み合わせられて一つの動詞のように使われる旨の記述がみられる。同様に、黄华 1992 : 630-631 には、“**遇**”が他の多くの動詞とは異なって単独で用いられることはない旨の記述がみられる。また、(42)’、(43)’は、述語動詞が「**ニ**」格の名詞と組み合わせられている点において主要部前項型の複合動詞が対応するケースとは異なるが、本稿においては“**V到**”との対応関係が成立するケースとして「**ヲ**」格の名詞と組み合わせられるケースと同列にあついている。森田 1994 : 147-150 には、日本語においてある成分が目的語であるか否かの判断基準は「**ヲ**」格の助詞をとるか否かに依拠し、「**ニ**」格をとる場合は自動詞とされるものの、両者の間には明確な線が引けるものではない旨の記述がみられる。本稿では、この点をふまえた上で、(42)、(43)における“**V到**”がいわゆる目的語をとっている点を考慮し、「**ヲ**」格をとる場合と同列にあついている。ちなみに久野 1973 : 61 は、「**ニ会う**」表現において「**ニ**」により示される名詞的成分を目的語としている。
- 40) 「**見つかる**」が状況中心の表現に用いられるという点については、國廣 1974 a : 48-49 を参照。
- 41) 日本語が状況中心の表現方法をとる傾向を有する点については、國廣 1974 a : 48-49、同 1974 b : 47-48、石綿・高田 1990 : 96-102、神田 1994 : 111, 113、森田 1994 : 148、井上 2006 : 26-29、成戸 2009 b : 195-196 を参照。
- 42) “**找**”、“**找到**”に対してそれぞれ「さがす」、「見つかる」が対応する点については、讚井 1996 : 30、丸尾 1997 : 115 を参照。
- 43) “**看到**”、“**听到**”、“**闻到**”に対してそれぞれ「見える」、「聞こえる」、「におう」が対応するケースについては、《

漢日辞典(“-**到**”の項)》、荒川 1985 a : 5、郭春貴 2001 : 319 を参照。

- 44) 郭春貴 2001 : 365 は、“我**买到**那本书了。”に対して「あの本を**手に入れた**。」とともに「あの本を**買った**。」を対応させている。
- 45) 待場 1990 : 53 にみられる“**买到 — 買って手にいれる**”のような対応は、“**买到**”における前項、後項の働きを説明するための便宜的なものであるとみるのが妥当である。『現代中国語辞典(“-**到**”の項)』の“**买到了 — 買って入手した**”も同様である。
- 46) 石井 1987 : 59 は、複合動詞は動きを動作面と変化面に分析しそれらを継起的に配列して表わす一方、動きをひとまとまりのものとして表現するのに対し、「**～テ～スル**」においては一連の動きが別個のものとして表現されているとしている。
- 47) 但し、寺村 1982 : 277 には、自発態を使つての可能は、発話の場・時点において具体的にあるものが視覚・聴覚によってとらえられることが可能か否かを問題とする点において可能態を使つての可能とは異なる旨の記述がみられる。「見える、聞こえる」が可能の意味を含んでいる点については、さらに小矢野 1979 : 84-85 を参照。(46)、(46)’においては「聞こえた」に対して“**能听到**”が対応しており、「聞こえる」から可能の意味が読みとられていることがうかがわれる。
- 48) 可能表現が状態表現としての性格を備えている点については、さらに小矢野 1981 : 31、寺村 1982 : 275、かねこ 1986 : 79、井島 1991 : 160 を参照。
- 49) 大野 1978 : 123-124 には、可能は自発とともに自然のなりゆきを表わす旨の記述が、小矢野 1979 : 94-95 には、いわゆる可能動詞が自発の意味を表わす点についての記述がそれぞれみられる。可能と自発の連続性については、さらに寺村 1982 : 256-257, 271-273、井島 1991 : 161、張威 1998 : 1-4, 74-76, 88-92、同 2008 を参照。両者の相違については、他動詞を用いた可能表現と自動詞表現との相違について述べた森田 1988 : 85-90、可能と自発との相違点について述べた寺村 1982 : 275-278、井島 1991 : 178-181、川村 2004 : 118-119 を参照。対応する自動詞をもたない他動詞を用いてコトガラを状況中心に表現する方法としては可能表現のほか、「他動詞の受身形+**テイル**」形式が存在する。この点については、森田 1977 : 473、同 1988 : 144-146、同 1990 : 39、成戸 2009 b : 284-286 を参照。

参考文献

- 荒川清秀 1982. 「中国語の語彙」, 森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 12 外国語との対照Ⅲ』, 明治書院, 62-84 頁。
- 荒川清秀 1985 a. 「補語〔結果補語・方向補語・可能補語・程度補語〕」, 『中国語』1985 年 11 月号, 大修館書店, 4-6 頁。
- 荒川清秀 1989. 「補語は動詞になにをくわえるか」, 『外語研紀要』第 13 号, 愛知大学外国語研究室, 11-24 頁。
- 石井正彦 1987. 「複合動詞の成立条件」, 寺村秀夫・鈴木泰・野田尚史・矢澤真人編集『ケーススタディ 日本文法』, おうふう(1998), 56-61 頁。
- 井島正博 1991. 「可能文の多層的分析」, 仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』, くろしお出版, 149-189 頁。
- 石村広 1999. 「現代中国語の結果構文 — 日英語との比較を通じて —」, 『文化女子大学紀要 人文・社会科学研究』第 7 集, 141-155 頁。
- 石綿敏雄・高田誠 1990. 『対照言語学』, 桜楓社。
- 井上優 2006. 「日本語から見た中国語」, 『日本語学』2006 年 3 月号(VOL. 25), 明治書院, 26-33 頁。
- 大河内康憲 1980. 「中国語の可能表現」, 『日本語教育』第 41 号, 日本語教育学会, 61-73 頁。
- 大野晋 1978. 『日本語の文法を考える』, 岩波新書。
- 郭春貴 2001. 『誤用から学ぶ中国語 — 基礎から応用まで —』, 白帝社。
- かねこ・ひさかず 1986. 「日本語の可能表現<現代語> — 標準語のばあい —」, 『国文学 解釈と鑑賞』1986 年 1 月号, 至文堂, 74-90 頁。
- 川村大 2004. 「受身・自発・可能・尊敬 — 動詞ラレル形の世界 —」, 尾上圭介編『朝倉日本語講座 6 文法Ⅱ』, 朝倉書店, 105-127 頁。
- 神田千冬 1994. 「中国語の特徴 — 日中対訳にみられる<モノ>的表現と<コト>的表現」, 『中国語研究』第 36 号, 白帝社, 111-120 頁。
- 木村英樹 1981. 「被動と『結果』」, 『日本語と中国語の対照研究』第 5 号, 日中語対照研究会, 27-46 頁。
- 國廣哲彌 1974 a. 「人間中心と状況中心 — 日英語表現構造の比較 —」, 『英語青年』1974 年 2 月, 研究社, 48-50 頁。
- 國廣哲彌 1974 b. 「日英語表現体系の比較」, 『言語生活』1974 年 3 月, 筑摩書房, 46-52 頁。
- 久野暉 1973. 『日本文法研究』, 大修館書店(再版 1974)。
- 倉石武四郎『岩波 中国語辞典 簡体字版』, 岩波書店(1990)。
- 倉石武四郎・折敷瀬興編『岩波 日中辞典』, 岩波書店(1983)。
- グループ・ジャマシイ 編著<中文版 日本語句型辞典(『日本語文型辞典』中国語訳(簡体字版))>, くろしお出版(2001)。
- 小池清治・小林賢次・細川英雄・犬飼隆編集『日本語学キーワード事典』, 朝倉書店(1997)。
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編『日本語 基本動詞用法辞典』, 大修館書店(1989)。
- 香坂順一編著『現代中国語辞典』, 光生館(1982)。
- 国立国語研究所 1972. 『国立国語研究所報告 43 動詞の意味・用法の記述的研究』, 秀英出版(3 版 1978)。
- 小矢野哲夫 1979. 「現代日本語可能表現の意味と用法(I)」, 『大阪外国語大学学報 45 言語編』, 83-98 頁。
- 小矢野哲夫 1981. 「現代日本語可能表現の意味と用法(Ⅲ)」, 『大阪外国語大学学報 54 言語編』, 21-34 頁。
- 佐治圭三 1992. 『外国人が間違えやすい 日本語の表現の研究』, ひつじ書房。
- 讚井唯允 1996. 「結果補語・方向補語とアクチオンズアルト(1)」, 『中国語』1996 年 7 月号, 内山書店, 28-31 頁。
- 新村出編『広辞苑』, 岩波書店(5 版 1998)。
- 杉村博文 1988. 「可能補語の考え方」, 大河内康憲編集『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』, くろしお出版(1992), 213-232 頁。
- 張威 1998. 『日本語研究叢書 10 結果可能表現の研究 — 日本語・中国語対照研究の立場から —』, くろしお出版。
- 寺村秀夫 1982. 『日本語のシンタクスと意味 第 I 巻』, くろしお出版。
- 長嶋善郎 1976. 「複合動詞の構造」, 鈴木孝夫編『日本語講座 — 第四巻 日本語の語彙と表現』, 大修館書店, 63-104 頁。
- 成戸浩嗣 2009 a. 「視覚動作を表わす表現の日中対照 — 『見つける/見つかる』, 『見かける』に対応する中国語の表現 —」, 『コミュニティ政策学部紀要』第 12 号, 愛知学泉大学コミュニティ政策学部, 59-79 頁。
- 成戸浩嗣 2009 b. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』, 好文出版。
- 姫野昌子 1999. 『ひつじ研究叢書<言語編>第 16 巻 複合動詞の構造と意味用法』, ひつじ書房。
- 平井勝利・成戸浩嗣 1999. 「中国語の『V 到』とそれに対応する日本語の表現」, 『言語文化論集』第 20 巻第 2 号, 95-112 頁。
- 文化庁『外国人のための 基本語用例辞典』(2 版 1975)。
- 待塔裕子 1990. 「日中の複合動詞の対照研究(一) — 中国語の『動詞+結果補語』構造の場合」, 『流通科学大学論集 — 人文・自然編 —』第 2 巻第 2 号, 41-60 頁。
- 丸尾誠 1997. 「“V+到+L”形式の意味的考察」, 『中国言語文化論叢』第 1 集, 東京外国語大学中国言語文化研究会, 103-123 頁。
- 望月圭子 1990. 「日・中両語の結果を表わす複合動詞」, 『東京外国語大学論集』第 40 号, 13-27 頁。

- 森田良行 1977. 『基礎日本語』, 角川書店(12版1987)。
- 森田良行 1988. 『日本語の類意表現』, 創拓社。
- 森田良行 1990. 『日本語学と日本語教育』, 凡人社。
- 森田良行 1994. 「動詞の自他に関する諸問題」, 『動詞の意味論的文法研究』, 明治書院, 147-170頁。
- 森山卓郎 1988. 『日本語動詞述語文の研究』, 明治書院。
- 刘月华・潘文娉・胡群著／相原茂監訳『現代中国語文法総覧(下)』, くろしお出版(1991)。
- 呂叔湘主編／牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典——現代漢語八百詞増訂本』日本語版』, 東方書店(改訂版2003)。
- 顾明耀主編『日语动词用法词典』, 商务印书馆(2002)。
- 黄华 1992. <“动(形)+到+……”的结构分析>, 北京语言学院语言教学研究所选编『现代汉语补语研究资料』, 620-633頁。(原载『天津师大学报』1984年第5期)
- 吉林大学汉日词典编辑部『漢日辞典』, 吉林人民出版社(1982)。
- 李进守・谢信松・孙宗明・黄一波・徐宝妹编『日语5000基本词词典』, 上海外语教育出版社(1988)。
- 刘月华・潘文娉・胡群『实用现代汉语语法』, 外语教学与研究出版社(1983)。
- 呂叔湘主編『现代汉语八百词(增订本)』, 商务印书馆(1999)。
- 王砚农等編『汉语动词——结果补语搭配词典』, 北京语言学院出版社(1987)。
- 張威 2008. 「有对自动词无标记表示的可能义——结果可能义」, 日中対照言語学会『日本語と中国語の可能表現』, 白帝社, 231-248頁。

用例出典

- 日本国际学会友会日本語学校編『学友現代日語IV』, 北京出版社(1984)。
- 高晓声<陈奂生上城>, 『中国当代著名作家文库 高晓声代表作』, 黄河文艺出版社(1987)。

[付記] 本稿は、平井・成戸 1999 を大幅に加筆・修正したものである。

(原稿受理年月日 2014年7月23日)